

## WHC 第11回OB・OG夏合宿記録 (2017年8月6日～8日)

この夏、関東甲信地方は梅雨の実感がないまま早々に明け、その後大雨に遭った北陸から東北地方も8月2日には明けましたが、長寿命ののろのろ台風5号の北上を気にしながらの合宿入りとなりました。

合宿計画書で齋藤リーダー曰く「今年の夏合宿は、(信州)白馬村で展望三昧・花三昧の山歩きをします。3日間共、ロープウェイ とリフトをフルに使って、楽々と楽しめるコースを選びました。」と。さてどのような3日間になったのでしょうか。

\*                     \*                     \*                     \*

初日(8月6日)、11時30分にJR白馬駅に集合したのは次の19人(敬称略)で、夏合宿11回目にして、初めて1～8期の全年次が揃いました。

1期…大河内、佐藤一雄、田中泰邦    2期…中島    3期…小川戸  
4期…大竹、田上、徳淵、西海、花田、五十嵐  
5期…佐藤(高橋)牧子    6期…杉原(綿貫)、柁木(小幡)、佐藤徹  
7期…加藤、田中健治    8期…齋藤(=リーダー)、佐藤憲一

このうち、田上さん、佐藤夫妻はマイカーで参加され、その後の移動で大変お世話になりました。

この日は八方尾根を八方池と第3ケルンまで往復しました。車で八方駅(770m)へ行き、大きな荷物は



車に預けたまま、軽身でリフト3本を乗り継ぎました。乗換えの途中にある鎌池湿原で早くも花たちの出迎えを受け、足の届きそうなリフトの下の斜面にも花、花、花…

リフト終点にある八方池山荘(1830m)はちょうど10年前の2007年7月、第1回OB合宿の初日の宿で、そのときの2日目は降りしきる雨に咲く花に慰めながら唐松岳へ登り、3日目には快晴の下、南北アルプスから遠く富士山までの大展望を楽しみながら下りました。当時のことが口々に語られましたが、メンバー5人のうち、唯一植村さんを欠いてしまったのは惜しい限りです。



日曜日ということもあってか、大勢の人が登山道を上り下りしていました。岩がゴロゴロする道の両側には花、花、花… 頭上には青空が見え、山麓の景色を見下ろすことはできましたが、指呼の間にあるはずの白馬三山は山腹の雪渓までしか見えず、五竜岳や鹿島槍は完全に雲の中でした。それでも石神井ケルンで一息入れているとき、雲の切れ間からつかの間覗いた不帰のキレットが、この日見ることのできた唯一の後立山の稜線になりました。わずかに残る雪を踏んでから八方池の畔に出ると、ここもまた花、花、花…



第3ケルン(この合宿の最高地点、2080m)を経て木の階段道を下りました。もちろんこちら側にも花、花、花… ここまでに咲いていた百花繚乱、いや100を超えようという花の中から、田上花博士ご指導のもと、私の十花選…下野草、大葉擬宝珠、車百合、九蓋草、山吹升麻、高根松虫草、立山竜胆、白山沙参、伊吹防風、八方薄雪草、細葉の木曾千鳥…あれっ 1つ多かったかな。

今年の宿は岩岳に近いペンション「ミニヨンホテル・ドゥ・ノエル」。「ノエル」とはフランス語でクリスマスのことだそうで、38年余の歴史と日頃の手入れを感じさせる建物の内外、所狭しと展示されたパッチワークやドライフラワー、万事行き届いたオーナーご夫妻の対応など、WHC合宿にふさわしい宿で、ここを選ん



だ齋藤リーダーの慧眼にも改めて感心しました。部屋に落ち着いてから、天然温泉「白馬姫川温泉」を引湯した大(?)浴場で汗を流した後、3年ぶり参加の中島さんの音頭による乾杯で待望の夕食開始。冷たいポテトスープから始まり、魚、肉からデザートまで料理自慢のオーナーのフルコースディナーが供されました。もちろん生ビール、ワインをはじめとする飲み物に乾いた喉を潤しました。その頃には雷鳴、稲光を伴う雨が降り出しましたが、館内の熱気が高まり、いつしか雨のことは忘れてしまい、その後、恒例の大宴会へと移りました。

\* \* \* \*

2日目(7日)は、梅池自然園へ上がり、ハイキングコースを「ゆ〜っくり」と散策しました。



夜来の雨は何処へやら、明るくなった宿の窓から岩岳の山の端の上に鹿島槍の双耳峰が見えました。早速絵筆を持った大竹画伯がさらさらと一枚、ここにその名作を拝借します。

これまた美味しい朝食の後、山麓の梅池高原駅(639m)までは車、そこからゴンドラリフトと71人乗りロープウェイを乗り継いで30分ほどで自然園駅(1829m)へ。ビジターセンターへの道すがら、前方に雪渓を抱いた白馬連峰の一部が見え、水芭蕉がお化けのような葉を広げ



るミズバショウ湿原に入ると、鬼下野の花の上に白馬岳本峰が姿を見せました。ちょうど青空に一筋の線を引く飛行機雲が印象的でした。次々と現れる花は前日の尾根道と異なり、湿地を好む花、花、花...

雄宝香、鬼塩釜、唐松草、紅葉唐松、檜扇文目、小葉の蜻蛉草、更科升麻など。池塘の多いワタスゲ湿原では文字通り綿菅が風に揺れていました。

楠川の流れを聴きながら一息入れ、浮島湿原で日光黄菅の群落を見て、モウセン池畔のベンチを借り切って昼食にしました。おにぎり3つにウィンナー、唐揚げなどの入った宿の弁当、熱い味噌汁とコーヒーに満ち足りました。ここから元気者5人が30分かけて展望湿原(2010m)まで往復しました。数十人の先



客がおり、幾分明くなった空に霧が流れて白馬大雪渓が現れるのを待ちましたが、その期待むなしく引き返しました。途中、ここだけで見た稚児車と岩鏡の新鮮な花びらが記憶に残ります。往路と

別の帰り道も花、花、花・・・ 途中の「風穴」では岩の間に残る雪から快い冷気が流れて来ました。

自然園入り口で集合写真のシャッターを押してもらった頃、それまで持ちこたえていた空から雨が降り出しました。この夏大幅リニューアルしたばかりというビジターセンターで、展示物を眺めたり、テレビ画面相手にゲームをしたり、憲一さんはボルダリングに挑戦したりなどしてしばしの時間を過ごし、雨と霧の中の



空中散歩で山麓に戻りました。

前夜同様おいしいフルコース料理の後、大宴会。ここでは各人の近況報告などで賑やかな時間を過ごしました。

テレビでは台風から遠く離れた地域の大雨や土砂災害、交通機関の途絶などが報じられていましたが、就寝前、窓から見上げた空には雲の合間に旧暦6月の十六夜の月が見えました。この日、暦の上では立秋、暑かった前夜より快適な眠りにつきました。

\* \* \* \* \*

最終日(8日)は日本海を通過中の台風の影響で大雨警報が出ており、白馬村も雨に明けました。



当初予定の岩岳山頂のユリ園と「ねずこの森ビュー自然探勝路」散策は、前夜の中に「雨の日プラン」に切り替えており、ゆっくり起き出して朝食。その後、車に分乗して「八方の湯」へ。「八」にちなんで8日は入浴料半額というラッキーに浴し、贅沢な朝風呂を楽しみ、さらに2手に分かれて、それぞれ近くにある「白馬三枝美術館」と「菊池哲男山岳フォトアートギャラリー」の作品を鑑賞しました。初めから「雨の日プラン」でも良かったくらいの充実した時間でした。

宿に戻って昼食兼打ち上げ会を挙げる。小川戸OB会長の音頭での乾杯に続き、打ちたての信州蕎麦に舌鼓をうちながら、3日間の楽しい思い出を語りました。

4期布施さんが上越市から駆けつけて、松本市内の「鳥幻望」で打ち上げ二次会を開催する予定でしたが、台風の影響で中止になったため、「あずさ26号」車中で打ち上げ会の続きが、これまた賑やかに行われ、それぞれの帰途につきました。

\* \* \* \* \*

台風5号の影響が最小限にとどまり、3日間のうち2日目までは文句なしのハイキング日和で、最終日は温泉と文化に親しんだ半日を過ごしました。展望三昧には一味足りませんでした。花の方は、「これまでこんなに多くの種類と数の多い山へ行ったことがない」との声が出たように贅沢三昧できました。

打ち上げ会席上、リーダーが「今回の11回は第2ラウンドの初回であり、20回をめざしてこれからも8月第1日曜日からの2泊3日の合宿を続ける」と宣言されました。私を含めて参加メンバーの歳に「9」を加えた姿、特に山スタイルは想像しにくいですが、とりあえず来年の8月5～7日は元気でお会いしましょう。

皆様ありがとうございました。

白馬村(は・く・ば・む(ら))を折り込み詠める。

八方・母池 雲間の峰を バックに百花が 群れて咲く

(記録係 五十嵐昭)